

令和 6 年度 看護実践研究委員会 活動計画

■活動目標	1. ニーズに応じた看護実践研究会の企画・開催・運営を行う。 2. 応募演題の質の担保が図れるようマニュアルを作成する。 3. 投稿者の負担を考慮し査読の質・量の標準化を行う。 4. 査読のプロセスを通して実践及び研究報告の支援を行う。 5. 実践及び研究報告のスライド作成の支援を行う。 6. 実践及び研究報告者、参加者が交流できる場を設定する。 7. 看護実践研究会の評価を行い次年度の活動を企画する。
■開催予定	6 回
■活動事業	令和 6 年度看護実践研究会の開催とそれに向けた企画委員会の開催 1. 看護実践研究会の開催 1) 開催時期：令和 6 年11月23日 2) 対象者：県内の看護職者 3) 開催形式：ハイブリッド開催 4) 開催テーマ：「チャレンジしよう！看護実践の小さな疑問を解き明かす」 5) 特別講演：テーマ「実践力を高める！臨床での看護研究の進め方」 講師：兵庫県立大学 坂下玲子 氏 2. 看護実践研究会の企画（定例会議で下記の事項を検討・決定する） 1) 演題および一般参加の募集要項について 2) 演題および一般参加の再募集について 3) 当日のプログラム、運営スケジュール、係員必携 ・特別講演、一般演題（口述・示説）、交流集会 4) 看護実践研究会の運営方法の検討 ・現地は研修室 3 で口述発表、研修室 1・2 で示説発表を行う ・オンライン参加の方に対して、示説のポスターをどのように閲覧可能にするかは要検討 5) 集録の内容、構成について 6) 令和 7 年度 特別企画教育講演の検討（テーマ、講師、内容） 3. 実践及び研究報告の支援 1) 応募演題の質の担保が図れるようなマニュアルの作成 ・投稿規定に文章の構成や記載事項を要約する。 ・投稿者自身のチェック表を充実させる。 2) 査読の質と量の標準化を図る。 ・原則 2 回の査読の範囲で抄録の修正を求める。 ・原稿の修正が困難であると判断された場合は委員会で対応を協議 3) 査読を通じた実践及び研究報告の支援 ・演題の採否だけでなく、応募者が文章構成や内容の推敲ができるよう助言・支援を行う。 4) 応募者の実践報告及び研究発表の支援 ・発表者に対して発表スライドの全体的な支援を行う。 案：音声付きスライドを発表者に対して限定公開する。

5) 看護実践研究会での交流会の企画

- ・実践報告及び研究発表者、参加者が実践報告・研究活動について相談できる場を設定する。

4. 看護実践研究会の開催と評価

1) 看護実践研究会の内容の評価

- ・看護実践研究会の評価はアンケートで行っているが、回収率が低いためアンケート配布方法や回収タイミングを検討する。